

# 組織目標評価報告書（平成25年度）

部局名：大学院医歯薬学総合研究科 薬学系

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p><b>①教育領域</b></p>	<p><b>自己評価</b></p>
<p><b>①-1 目標</b></p> <p>○教育の実施体制(組織的なFD, 教員のインセンティブ向上を含む)について新設された博士課程および改訂された博士後期課程の新カリキュラムを実施し、検証する。 ○教育方法・内容について新設された博士課程および改訂された博士後期課程での新カリキュラムを実施し、検証する。 ○教育の成果(学習の成果, 卒業後の進路)について「厳格な学位授与体制」を構築・強化する。 ○学生支援について相談委員会を設け、学生の生活・学習支援を行う。 ○その他</p>	<p>○教育の実施体制(組織的なFD, 教員のインセンティブ向上を含む)について新設の博士課程および博士後期課程の新カリキュラムを実施した。特に問題点も無く、順調な実施状況であった。</p> <p>○教育方法・内容について新設の博士課程および博士後期課程の新カリキュラムを実施した。特に問題点も無く、順調な実施状況であった。</p> <p>○教育の成果(学習の成果, 卒業後の進路)について新設の博士課程について、「学位に関する取扱要領」を作成した。学位授与体制については、より厳格な評価をめざし、審査委員の選出方法を検討した。</p>
<p><b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>○ファカルティ・ディベロップメントの体制、内容・方法や実施状況、その結果による ○教育課程の内容・構成 ○学生が受けた様々な賞の状況</p>	<p>○学生支援について相談委員会の設置について、協議した。</p>
<p><b>②研究領域</b></p>	<p><b>自己評価</b></p>
<p><b>②-1 目標</b></p> <p>○研究水準及び研究成果等について ・特別経費プロジェクト「難治性感染症を標的とした創薬研究教育推進事業」を一層発展させる。 ・分子イメージング高度人材育成事業による創薬教育/研究を推進し、理研との連携による薬学系独自の創薬大学院教育・研究を充実し、人材育成を推進する。 ・インドにおける新興・再興感染症拠点を基盤として、感染症研究の進展を図る。 ○研究実施体制等の整備について ・自然科学系や医療系との研究交流を活性化し、研究系大学として重点化に資する新たな研究シーズを見出し、研究実施体制の構築を開始する。 ・大型研究資金獲得のための方策を他大学・研究機関や他学系と連携し、共同研究を推進する。 ・科研費等の大型外部資金獲得を特に推進し、教職員の研究マインド向上に資する。 ○その他 ・国際競争力を備えた価値の高い研究業績を挙げることを推進し、成果を社会還元するため、公開講座や研究系紹介ホームページ等を充実をはかり、広報する。 ・研究遂行におけるコンプライアンス遵守徹底をはかる。</p>	<p>●特別経費プロジェクト「難治性感染症を標的とした創薬研究教育推進事業」を一層発展させ、国際シンポジウムを開催するとともに、論文発表・特許出願を実施した。 ●分子イメージング高度人材育成事業による創薬教育/研究を推進し、理研との連携による薬学系独自の創薬大学院教育・研究を充実し、人材育成を推進した。 ●インドにおける新興・再興感染症拠点を基盤として、感染症研究の進展を図り、国際シンポジウムを開催した。 ●大型研究資金獲得のための方策を他大学・研究機関や他学系と連携し、共同研究を推進した。 ●科研費等の大型外部資金獲得を特に推進し、教職員の研究マインド向上をはかった。 ●国際競争力を備えた価値の高い研究業績を挙げることを推進し、インパクトファクター(IF)が10以上の成果を出した。また、アウトリーチ活動として、研究系紹介ホームページ等を充実をはかり、広報した。 ●引き続き、研究遂行におけるコンプライアンス遵守徹底をはかる活動を実施した。</p>
<p><b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>○論文・著書等の研究業績の状況 ○競争的外部資金受入状況 ○学部・研究科等を代表する優れた研究業績リスト(SSリスト) ○若手教員、女性教員、外国人教員の採用状況</p>	
<p><b>③社会貢献(診療を含む)領域</b></p>	<p><b>自己評価</b></p>
<p><b>③-1 目標</b></p> <p>○地域社会との連携、社会貢献について ・薬剤師会、病院薬剤師会等と連携し、薬剤師の生涯学習に貢献する。 ・高校生や一般人に薬用植物園を公開し、社会の薬用植物への関心や理解を高める。 ○国際交流・協力、外国人研究者の雇用について ・難治性感染症プロジェクトを通じた国際的な研究連携を中国の研究機関を中心に進める。 ○その他 ・薬剤師や一般人を対象に薬学公開講座を開催し、薬学に関する最新情報の提供と知識の向上に努める。</p>	<p>1) 薬剤師および一般を対象とした公開講座(平成25年7月)、高校生および一般を対象とした公開講演会(平成25年6月)を実施し、またこれらの機会に薬用植物園を公開し、学習の便に供した。2) 岡山県薬剤師会および岡山県病院薬剤師会等と連携した岡山県薬剤師研修協議会の薬剤師卒業教育等の事業の一環とした講演会(平成26年2月)を開催した。3) 大学院における薬剤師卒業教育についても実施体制の充実をはかることとした。4) 韓国成均館大学との研究面での交流をも積極的に進めた。5) 難治性感染症プロジェクトにおいて、中国科学院昆明植物研究所のスタッフを客員研究員として受け入れ、共同研究を進めた。また、中国内蒙古大学修士課程修了者を研究生として受け入れ、教育面での貢献をも進めた。</p>
<p><b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>○公開講座等の実施状況 ○地域貢献・国際貢献への協力の状況</p>	
<p><b>【総括記述欄】</b> 学生および教員の研究力アップを目指した組織づくりを進めてきた。教員の栄転や学生の学術振興会研究員への採用も確実に増してきている。この方向でも改革をさらに進めておく必要がある。 研究面で薬学系トップ3に入るような成果が期待できる。</p>	